

# 漢文を読んで自らの生き方を考える

## －漢文を読み味わい、表現する－

- 1 科目名 古典 B
- 2 単元名 漢文
- 3 教材名 司馬遷「項王の最期」
- 4 単元の内容

単元の目標 と評価規準 ・評価方法	①単元の目標		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ア 漢文に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解することができる。 (知識・理解)</p> <p>イ 本文を読んで課題を設定し、その成果をグループでまとめて発表することができる。 (読む能力)</p> <p>ウ 登場人物の生き方に触れ、自らの生き方について考えようとしている。 (興味・関心・態度)</p> </div>		
②単元の目標設定の理由			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢文に対する苦手意識を持っている生徒は多い。漢文に関するアンケートをとると、学年が進行するにつれて、苦手意識が増す傾向にあるようである。中でも本文を読んでその状況を理解することが苦手である生徒が多いようである。そこで、この単元では一つの場面でグループごとに劇を演じて発表することで漢文を身近なものとして捉えさせたいと考えた。深く作品を理解するため、生徒自身に登場人物や時代背景について調べさせた。また、登場人物の生き方に触れる中で、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、人生を豊かにする態度を育みたいと考えている。</li> </ul>			
③中心となる学習活動			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「項王の最期」で表現されている項王の生き方や考え方について読み取り、それをグループで交流し、劇にして表現する。</li> </ul>			
④言語活動の工夫			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典 B の言語活動例エは「古典を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりすること。」であり、単元の目標ウを効果的に指導するために、言語活動例エを具体化した。</li> <li>・一人で考えて間違った答えを書いたり、理解できなかつたり考えがまとまらなかつたりすることが以前よく見かけられた。そこで、今回の単元では初めからグループ活動を行い、積極的に意見を交流することで考える意欲を高揚させるようにした。</li> <li>・単元の最後に、「我何面目見之」の場面をグループごとに劇として発表し、その後項王の生き方と自分の生き方を比較してまとめさせることで単元のまとめとした。</li> </ul>			
⑤評価			
	評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>①本文を読んで課題を設定し、その成果をグループでまとめて発表できている。</li> <li>②項王の生き方と自分の生き方を比較している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察 (机間指導) (発言)</li> <li>点検 (ノート、ワークシート)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで交流した内容をノートにメモするよう助言する。</li> </ul>
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>①本文を読んで、内容を展開に即して的確にとらえている。</li> <li>②項王の生き方について発言や行動から読み取っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察 (机間指導) (発言)</li> <li>点検 (ノート)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導をした際に個別に指導する。</li> </ul>
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>①本文中に用いられている語句の意味や句形を理解している。</li> <li>②登場人物や時代背景について調べることで、深く本文の内容を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察 (発言)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・辞書で調べるよう助言する。</li> </ul>

成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「我何面目見之」以外の場面はあらずじを把握することに重点を置いて授業を行った。それによって生徒は以前よりも集中して漢文の授業に取り組めていたように思われる。</li> <li>・単元のまとめとして項王の生き方をまとめ、自分の生き方と比較したことで、新たな考え方を得た生徒が多くいたように思われる。</li> <li>・「我何面目見之」の場面をグループで交流して劇として発表することで、「項王の最期」についてより深く理解することができたと思う。</li> <li>・グループごとで劇をして発表したのが、グループごとに準備の速度に大きく差が生じてしまい、やや授業が間延びしてしまったように感じられた。そのため、教師の側からいくつか条件を設けるとよかったと思う。</li> </ul>
アドバイス及び留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 生徒が発言や意見交流をしやすい雰囲気作りを心掛けた。また、毎時の学習目標を明示し、できるだけ達成感を味わわせられるように授業内容も精選した。</li> <li>② 普段の授業からペアワークやグループ活動をし、グループ活動をしやすい雰囲気作りをしておくとうい。</li> <li>③ 単元の最後に主人公の生き方と自分の生き方を比較して考えさせ、またクラスメイトと交流させることで、今後の進路を考える機会にもなり、効果的な学習となると思われる。</li> <li>④ 劇をする際に登場人物や小道具の使用などにいくつか条件を設けて行うとより効果的な学習ができると思われる。</li> </ol>
小中学校との系統性	<ol style="list-style-type: none"> <li>① (中学・1年・C読むこと) ウ 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。</li> <li>② (中学・2年・伝統的な言語文化) (イ) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。</li> </ol>

## 5 単元の学習概要

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1	○第一段落の内容を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一段落を書き下し文にし、現代語訳する。【イ】</li> <li>・項王の詩に着目し、項王の現在の状況を理解する。【イ】</li> </ul> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の鴻門の会から本時の場面に至るまでの流れを確認させる。</li> <li>・項王の詩から項王の現在の状況、心情を把握させる。</li> </ul>	<p>項王が置かれた状況を理解することができる。【読】</p> <p>↓</p> <p>点検 (ノート) 観察 (発言) (机間指導)</p>	<p>机間指導をした際に個別で指導する。</p> <p>↓</p> <p>項王が置かれた状況を確認させる。</p>
2	○第二段落前半の内容を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二段落前半を読み、項王の心情を理解する。【イ】</li> <li>・本文中にある再読文字、使役形について理解する。【ア】</li> </ul> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例文を用いて再読文字、使役形を復習し、理解させる。</li> </ul>	<p>項王の発言内容から項王の心情を理解することができる。【読】</p> <p>↓</p> <p>点検 (ノート) 観察 (発言) (机間指導)</p> <p>使役形を理解し、正確に現代語訳することができる。【読】</p> <p>↓</p> <p>点検 (ノート) 観察 (発言) (机間指導)</p>	<p>机間指導をした際に個別で指導する。</p> <p>↓</p> <p>第二段落前半の内容を確認させる。</p> <p>以前に再読文字、使役形の学習をした際のノートを振り返らせる。</p> <p>↓</p> <p>授業の冒頭で再読文字、使役形について復習をする。</p>
3	○第二段落後半の内容を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二段落後半を書き下し文にし、現代語訳する。【イ】</li> <li>・第三段落前半を書き下し文にし、現代語訳する。【イ】</li> <li>・項王の発言から項王の生き方、考え方を理解する。【イ】</li> </ul>	<p>第二段落後半の内容を理解することができる。【読】</p> <p>↓</p> <p>点検 (ノート) 観察 (発言) (机間指導)</p> <p>第三段落前半の内容</p>	<p>机間指導をした際に個別で指導する。</p> <p>↓</p> <p>第二段落後半の内容を確認させる。</p> <p>机間指導をした際に個別で指導する。</p> <p>↓</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>*留意点</li> <li>・次時はグループに分かれて劇の練習を行うことを伝える。</li> <li>・鳥江の亭長の発言を聞いて、項王が笑った理由を考えさせる。</li> </ul>	を理解することができる。【読】 ↓ 点検（ノート） 観察（発言） （机間指導）	第三段落前半の内容を確認させる。 ↓ 項王の発言を確認させ、助言を与えて考えさせる。 ↓ 項王の考え方を、前時のノートを振り返ることで確認させる。
4	○項王の発言から項王の生き方、考え方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第三段落後半を書き下し文にし、現代語訳する。【イ】</li> <li>・グループごとで劇の練習を行う。【イ・ウ】</li> <li>*留意点</li> <li>・セリフは書き下し文をそのまま用いず、グループごとで考えたセリフを用いさせる。</li> </ul>	第三段落後半の内容を理解することができる。【読】 ↓ 点検（ノート） 観察（発言） （机間指導） 第三段落の内容を劇で表現し、項王の生き方、考え方を理解することができる。【読】 ↓ 点検（ノート） 観察（発言） （机間指導）	項王の発言の内容をペアで確認するよう指導する。 ↓ 項王の発言内容および、その生き方や考え方を確認させる。
5 本時	○劇を通して、項王の生き方に触れ、自らの生き方について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第三段落をグループごとに劇で表現し、その後項王の生き方と自らの生き方を比較し、まとめる。【ウ・エ】</li> <li>*留意点</li> <li>・項王の生き方に触れるだけでなく、自らの生き方についても考えさせる。</li> </ul>	項王の生き方と自らの生き方を比較し、まとめることができる。【関】 ↓ 点検（ワークシート） 観察（グループ活動）	グループ内での意見交流を通して、考えを深めるように助言する。

## 6 学習指導案（第5時）

本時の位置	5時間目（全5時間）		
本時の学習目標	ア 本文を読んで課題を設定し、その成果をグループでまとめて発表することができる。（読む能力） イ 登場人物の生き方に触れ、自らの生き方について考えようとしている。（関心・意欲・態度）		
事前の準備	①劇で用いる短剣や冠などの小道具を準備する。 ②まとめのワークシートを準備する。 ③グループ活動を普段の授業から行っておく。		
	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 10分	□前時までの復習と本時の課題を確認する。	①前時までの本文の内容を確認する。 ②各自起立して、本文を音読する。	・前時までのあらすじを確認させる。 ・正しく音読が行われているか、机間指導をして確認する。
展開 20分	□本文の内容を劇で表現する。	③各グループで劇の最終打ち合わせをする。 ④1番目のグループから順に劇をする。劇を終えたら工夫した点や表現するのが難しかった点などを発表する。劇を見ている側の生徒は評価シートに他のグループの劇の評価を記入しながら見る。	・机間指導をしてグループごとの進捗状況を確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>目標アに対する評価規準と評価方法</b>            [規準]            ・本文を読んで課題を設定し、その成果をグループでまとめて発表することができる。            [方法]            ・観察（劇の内容・グループ活動の様子）            ・点検（ノート）            [状況Cの生徒への手立て]            ・机間指導の際に個別に指導する。         </div>

<p style="writing-mode: vertical-rl;">まとめ 20分</p>	<p>□項王の生き方や考え方と自分の生き方や考え方を比較し、まとめる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>項王の生き方や考え方と自分の生き方や考え方を比較し、まとめよう。</p> </div> <p>⑥項王の生き方や考え方と自分の生き方や考え方を比較し、感じたことをノートにまとめる。</p> <p>⑦グループごとに⑥でまとめた考えを交流する。</p> <p>⑧指名された数名の生徒が発表し、全体でまとめる。</p> <p>⑨次時の授業内容について確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・項王の生き方や自分の生き方や考え方を比較することで、自らの生き方を考えさせる。</li> <li>・古典の中の人物に触れることで、ものの見方、感じ方、考え方が広がり、それが人生を豊かにすることに繋がることに気づかせる。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>目標イに対する評価規準と評価方法</b></p> <p>[規準]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の生き方に触れ、自らの生き方について考えようとしている。</li> </ul> <p>[方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察（発言・グループ活動の様子）</li> <li>・点検（ノート）</li> </ul> <p>[状況Cの生徒への手立て]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と異なった意見でも、共感できるものがあれば書き留めるように助言する。</li> </ul> </div>
---	---	---	---